

刀 林

題字 故前田和二郎名誉教授
発行所 東京都新宿区信濃町 35
慶應義塾大学医学部
外科学教室同窓会(刀林会)
発行人 北島政樹

平成 29 年度 刀林会総会の報告



刀林会理事長
国際医療福祉大学
副理事長 名誉学長
北島 政樹 (45回)

平成 29 年度、刀林会総会は 6 月 24 日ホテルオークラ東京で開催されました。前年度より 25 名多い、169 名の会員の参加でありました。総会開会の冒頭に平成 28 年度の物故会員 19 名に黙祷が捧げられ、故人の冥福を祈りました。その後、例年通りに平成 28 年度同窓会及び教室の年間報告が行われ、現在の会員数 1175 名であり、通常理事会がメール会議を含めて 6 回開催され、新たに従来からの委員会の名称・機能変更、また新たに改称された将来構想委員会、機関紙「刀林」の内容のイノベーション、及び女性外科医の各種委員会への参加などが議論、決定されました。教室年間報告に於いては各教室構成員と関連施設への人事派遣の

報告がなされました。また委員会報告に於いては平成 29 年度同窓会としての新たなイノベーションを指し、女性医師ワークショップ、さらには 2020 年のオリンピックイヤーと一致して、外科学教室 100 周年記念事業に関する検討内容が松本委員長より報告がありました。さらに例年通りに刀林賞選考委員会に於ける選考課程と選考結果が報告され、総会に於いて刀林賞・尾原秀明君(72回)、刀林奨励賞・橋本浩平君(84回)、近藤崇之君(88回)が受賞され、表彰後に研究内容の報告がありました。その後、本年度の刀林会入室者 1 名の紹介に続き、平成 29 年度新入室者が紹介され菱田智之君(77回)をはじめ途中入室

評議員会議事録概要

日時・平成 29 年 6 月 24 日 15 時より 16 時
出席理事・評議員 50 名(うち書面出席 13 名)
互選により、評議員議長に熊井浩一郎君(46回)が全会一致にて承認された。報告・審議案件と結果は次のとおり
1. 平成 28 年度刀林会年間報告
会員数 1175 名(前年比 39 名)
物故者 19 名
開業 3 名
通常理事会 4 回 Eメールにより理事会 2 回
通常評議員会 1 回、通常総会 1 回
2. 平成 28 年度教室年間報告
(北川教室主任)
教室主任 北川雄光(65)、
教室幹事 尾原秀明(72)、
教室幹事補佐 篠田昌宏(73)、
吉武明弘(77、心) 大塚崇(75、呼) 星野健



また恒例の刀林会講演会は塾員として学外で華々しい活躍をされている国立研究開発法人日本医療研究開発機構理事長 末松誠君(62回)による「AMED のミッション・課題解決に向けた異端と先導」厚生労働省医務技監鈴木康裕君(63回)「平成 30 年医療・介護同時改定 toward and beyond」の 2 人に講演をいただいた。全員記念撮影後に無事平成 29 年度総会を終了し、懇親会が開催され、先輩、後輩共々、楽しい懇親の一時であった。

(63、小) 専修医担当主任 林田哲(77、一、総括) 木村成卓(78、心) 菱田智之(77相、呼) 星野健(63、小) 研修医担当主任 八木洋(77、一、総括) 山崎真敬(78、心) 加勢田馨(86相、呼) 山田洋平(81、小)
3. 教室会議構成員
黒田達夫(61、小) 浅村尚生(62、呼) 北川雄光(65、一) 志水秀行(65、心) 饗庭了(62、心) 星野健(63、小) 長谷川博俊(66、一) 尾原秀明(72、呼) 篠田昌宏(73、一) 川久保博文(73、一) 大塚崇(75、呼) 菱田智之(77相、呼) 吉武明弘(77、心) 岡林剛史(78、一) 鶴田雅士(79、一)
連携教室員 渡辺真純(64、呼) 林田哲(77、一) 人事異動および役職・職名の変更
一般・消化器 90 名 心臓血管外科 24 名
呼吸器外科 13 名 小児外科 7 名
の異動を中心に
3. 委員会報告
(1) 将来構想委員会(松本委員長)
メイリングリストの整備、訃報連絡、女性医師のワークショップ、脳外科との関係について
(2) 刀林会新病院棟建設募金委員会(熊井委員長)
150 周年募金と新棟建設募金について

(3) 刀林賞選考委員会(幕内委員長)
刀林賞 尾原秀明(72回)
刀林奨励賞 橋本浩平(84回)、近藤崇之(88回)
4. 平成 28 年度会計報告(小澤財務委員長)
決算・財産目録・監査結果について報告、会費納入方法の検討
5. 新入室者の報告(北川教室主任)
94 回生 11 名、94 回相当 12 名、一般消化器外科 3 名、心臓血管外科 2 名、呼吸器外科 3 名 計 31 名
審議事項
1. 平成 29 年度事業計画(松本副理事長)
2. 刀林新聞発行
3. 評議員会・各委員会
4. 学会支援募金
5. 新棟建設募金
6. ホームページ運営
7. 教室 100 周年記念事業策定
8. 留学援助
承認
2. 平成 28 年度決算および平成 29 年度予算(小澤財務委員長、安藤監事)
ほぼ例年どおり 承認
3. 新入室者について(北島理事長)
公立福生病院乳腺外科瀬沼幸司君 承認
4. 学会支援募金活動について(北島理事長)
(1) 第 90 回日本胃癌学会総会・会長の片井均君(61回)
(2) 第 48 日本創傷治療学会・会長の宮澤光男君(64回)
承認
その他

総会議事録概要

ホテルオークラ東京別館地下 2 階アスコットホール 16 時半〜17 時半
出席会員数 169 名(前年比 +25 名)
会則により理事長が議長を務めた
開会冒頭に平成 28 年度中に物故された刀林会員 19 名に黙祷が捧げられた。
1. 報告事項
1. 平成 28 年度同窓会年間報告 理事長
2. 平成 28 年度教室年間報告(北川教室主任、資料 2)
3. 各委員会報告
(1) 将来構想委員会(松本委員長)
(2) 広報委員会(小澤委員長)
(3) 刀林賞選考委員会(幕内委員長)
(4) 新病院棟建設募金委員会(熊井委員長)
(5) 平成 28 年度決算(星野健会計担当幹事、資料 6)
4. 平成 29 年度事業計画(熊井副理事長)
5. 平成 29 年度予算(星野幹事)
6. 平成 29 年度学術集会開催支援募金(理事長)
(1) 第 90 回日本胃癌学会総会学術集会(会長 国立がん研究センター 中央病院胃外科 片井均、61回) 総予算 7 千 2 百万のうち 3 百万の支援要請
(2) 第 48 回日本創傷治療学会総会(会長 帝京大学溝口病院教授 宮澤光男、64回相) 総予算 1 千 5 百万のうち 150 万円の支援要請
2. 刀林賞表彰(理事長)

刀林賞 尾原秀明(72回) 慶応義塾大学医学部 一般・消化器外科
刀林奨励賞 橋本浩平(84回) 慶應義塾大学医学部呼吸器外科
刀林奨励賞 近藤崇之(88回) 東京医療センター 表彰ののち、受賞者から研究について報告があった
3. 新入室者及び新入室者紹介
1. 刀林会新入室者(理事長)
本総会前の理事会及び評議員会で承認された 1 名が、推薦者の北川教授より紹介があり、自己紹介があった
2. 平成 29 年度新入室者報告(林田哲専修医担当主任、77回、資料 10)
77 回相当菱田智之(呼吸器外科准教授)をはじめ途中入室者 8 名、94 回生及び同相当 23 名の紹介があり、各自、自己紹介
4. 講演会
司会・松本純夫・副理事長
演者・国立研究開発法人日本医療研究開発機構理事長 末松誠(62回)
演題:「AMED のミッション・課題解決に向けた異端と先導」
司会・北川雄光・外科学教室主任・刀林会副理事長
演者・厚生労働省保険局長 鈴木康裕(63回)
「平成 30 年医療・介護同時改定 toward and beyond」
5. 全員記念撮影
以上で平成 29 年刀林会総会を終了した。その後、アスコットホールにて懇親会が開催された。

総会懇親会報告



慶應義塾大学医学部
外科（一般・消化器）
同窓会係

岡林 剛史（78回）

刀林会総会に引き続き、ホテル・オークラ アスコットホールⅡに場所を移動し、刀林会会員懇親会が盛大に行われました。懇親会に先立ち、同ホールにて参加会員全員で集合

写真を撮影いたしました。集合写真撮影は最近の恒例となっており、152名と多くの会員の先生方が一堂に会した集合写真は、まさに刀林会のつながりと力を感ぜられるものとなりました。

その後、北島理事長から刀林会員にとって大きな力となるご挨拶を、引き続き前田昭二君（33回）から相変わらぬお元気なご挨拶および乾杯のご発声をいただき

ました。この後は、ホテル・オークラの食事を立食形式で楽しみながらご歓談の時間となりました。非常に和やかな雰囲気の中、同期や出張先での恩師との再会を懐かしまれる様子や、世代を超えた親睦や交流が、会場内のいたるところで見受けられました。会の後半では、恒例の「理事長とじゃんけん大会」が行われました。

北島理事長との間でじゃんけんを行い、勝ち残った先生には各種のプレゼントが渡されました。懇親会の締めとして、遠藤泰君（91回）のエイールにより、「若き血」を全員で力強く斉唱し、会場は一体感に包まれました。

き、懇親会の開宴となりました。最後は北川雄光教室主任からご挨拶をいただき、来年の再開を約束し、閉会となりました。

本年度は外科学教室新入室者に女性医師が多く、例年に比べて華やかな懇親会となりました。外科入局者の減少が問題となっている今日、女性医師の力は刀林会においても大変重要です。そういった意味においても、今年度の懇親会は新しく開かれた刀林会の未来を予感させるものであり、意義深い懇親会となりました。来年度はより多くの刀林会会員の先生方に出席していただき、より盛大な懇親会を行うことができれば幸いです。



湘南慶育病院 院長就任



松本 純夫 (52回)

慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス(SFC)は2016年に開学25周年、看護医療学部は2001年開設し2017年で16年目です。開設時の学部長は刀林会前理事長 吉野肇一君(44回)でした。当時病院建設の話熱く話しておられました。しかし藤沢市の「健康と文化の森」構想に病院建設は拠点として必須にもかかわらず、なかなか実現しない状態が続いていました。SFCの働きかけを受け医療法人社団健育会理事長竹川節男君(60回相等)が建設を決意したことにより、230床の病院が2017年11月に開院し長年の懸案が解決することになりました。私は2014年に東京医療センターを退任したときに病院建設準備室長のお誘いを受け、胃腸の指導医であった元看護医療学部長の話にも何らかの因縁を感じ引き受けました。2018年4月には神経内科鈴木則宏教授(56回)に院長職を譲り顧問になる予定です。

泌代謝、外科系は眼科、消化器、整形外科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、皮膚科で各教室および関連病院から人材派遣を受けます。藤沢市医師会からの要望を受け特色ある診療科としてはブレイン・マシン・インターフェイス理論に基づくスマートリハビリテーション、認知症対策としてのメモリークリニックを里宇教授と三村教授から支援を受けて開設します。そのほか神奈川県からの要望を受けた未病対策室も開設予定です。

SFCの特色はインターネットを利用した教育です。その面から言えば湘南慶育病院としても進歩し続ける通信技術を利用した診療形態を採用することがSFCとの連帯からみて必然となります。外来及び患者・家族への連絡にはソーシャルネットワークサービス(メデイカルケア・ステーション)を利用します。入院の場合はリアルタイムで患者さんごとの家族に届き、今までにない安心感が提供できます。健育会の訪問看護・リハビリテーションサービス部門コクタウンとも結び、

医療から介護までシームレスに情報提供をします。さらに受診時にはiPadに年齢や症状を入力すると電子カルテに内容を取り込めるので、何度も症状を聞かれることはありません。またNECの協力を受けて自動問診システムを取り入れます。機械学習とAIで日々進化するシステムです。近い将来は病院のホームページから自動問診システムにアクセスし症状を入力すると、病院にすぐ向かった方がよいか、しばらく自宅で様子を見た方がよいかなどのアドバイスを提供できるようになります。夜間、急に発熱したお子様などについてご両親の判断を援助するツールとして有用と考えています。さらに近未来に実現したいシステムとして放送と通信を融合したサービスを考えています。ご自宅の4K・8Kテレビに外来の医師画像が出てきて、患者さんとお話をする。いわゆる「Hospital in the home」の実現です。病院に來なくても医療者と結ばれる安心感は満足行くものと信じ、SFCと共同開発を始めます。

国立病院機構埼玉病院 院長就任



原 彰男 (60回)

2017年4月より独立行政法人 国立病院機構埼玉病院第15代院長を拝命いたしました。これもひとえに刀林会諸兄のご支援の賜物と感謝しております。当院の歴史は古く1941年に陸軍病院として創設されていきます。刀林会の先輩として、石山和夫先生(32回)、石引久弥先生(35回)、牛島康榮先生(48回)の先方が当院の院長を歴任されておられます。当院は埼玉県和光市にあり、慶応病院より電車で40分程の距離です。2010年に築40年以上の建物を、全面建て替えを行いました。病院の概要は350床・平均在院日数11.2日・平均病床利用率92%の急性期医療中心の病院であり、おもな診療機能として地域医療支援病院、地域がん診療連携拠点病院、地域周産期母子医療センター、地域災害拠点病院、病院機構循環器病基幹施設などの指定を受けています。当院の属する埼玉県南西部医療圏は人工推計によると2025年には当地域の75歳以上の人口が1.5倍になり医療需要が急速に増大すると予測されています。このため埼玉県第6次地域保健医療計画に基づき、この地域で約400床の増床が行なわれ、当院は救急医療・周産期医療・小児救急医療・緩和医療・高度専門医療などを中心に200床の増床を行う事になりました。準備を進めてまいりましたが、ようやく2017年4月より新館の建築が始まりました。2018年10月には新館が竣工、その後手術室の造設など本館側の改修を行います。

2019年4月より550床の病院として新たにスタートします。新病院は救命センターの新設やハイブリッド手術室など充実した機能を備えた、埼玉県南西部医療圏の基幹病院となります。当院の刀林会会員は工藤樹彦循環器病センター部長(64回相当)・石塚裕人統括診療部長(70回)・早津成夫(73回相当)・外科部長ほか消化器外科3名、乳腺外科3名、心臓血管外科1名が在籍しており、皆それぞれ精力的に活躍しております。当院は慶応病院と距離的にも近く、臨床・研究とさまざまな面で連携できると考えております。また関連病院として当院のような都会型の病院が今後重要かと思われ、来年度の医療介護の同時診療報酬改定、新専門医制度の施行、病院勤務医の労働者として働き方改革など病院をめぐる環境はますます難しい時代になっていきますが、今まで以上に当院の発展に尽くしていきたいと考えております。刀林会の皆様におかれましては、益々のご指導・鞭撻を承りますようお願いいたします。



慶應義塾大学病院 院長就任 次の100年に向けて、外科学教室の使命



北川 雄光 (65回)

この度、2017年8月1日付で慶應義塾大学病院院長を拝命致しました。外科学教授を拝命して10年が経過し、本年医学部が開設100年を迎え医学部・病院が次の100年へ歩み出す中、重責をお任せ頂いたことは身にあまり光栄と存じております。医学部開設100周年を記念して、初代医学部長北里柴三郎先生が唱えられた「基礎・臨床が一体となった医学」を最先端の医療として具現化する大きな舞台となる新病院棟建設が実現しました。この大事業に格別のご支援を下さった刀林会会員の皆様に、あらためまして深甚なる感謝の意を表したいと存じます。今、このチャンスに我々自身が自らを見つめ直して、様々な仕組みを大きく変えて行く決意を新たにしております。今こそ、次の100年において継続的に進化できる「形」を作って行かなくてはなりません。その「形」は伝統と実績に裏付けられた長期的な目標を堅持しながらも、目まぐるしく変化化する社会情勢、時代のニーズに即して

戦略的かつ機動的に対応できる「柔軟な形」であり、個人や個々の部門がいかにか全体最適化に向けて柔軟な変化を受け入れることができるかが大きな鍵となるものと考えます。新病院棟1号館では、手術室は最大稼働27室に増加し、広々としたレイアウトで最新の設備を完備しています。平日16列の全身麻酔手術枠からスタートしてさらに件数を増加する予定です。現在の高度急性期医療において外科系診療科による手術および入院治療が大学病院運営の大きな柱となることは明らかです。新病院棟では手術枠も共用枠を確保し、その時点における需要に鋭敏に対応できるシステムとします。外科学教室の皆様が病院全体を牽引し、未来への投資を可能とする収益体制を築いていただけるものと期待しております。また、現在推進されている診療クラスター構想の中で、若手医師がリーダーシップをとって診療科の枠組みを越えた新しい医療に挑戦しやすい土壌を作り、自由で開かれた信濃町キャンパスの構築に注力致します。若手医師が、誇りとやり甲斐を持って新しい慶應医学・医療を創造していただけるような職場環境を整備することが急務であると考えています。東京オリンピックが開催される2020年には新病院は全ての外構工事を終えて、グラウンドオープンを迎えます。またこの2020年は我々の外科学教室開設100周年に当たり、私自身が会頭として記念すべき第120回日本外科学会定期学術集会を開催させて頂いたたく予定となっています。新病院棟1号館への安全な移転、2号館・3号館の改修、電子カルテ更新、診療報酬改定への対応など短期的には多くの困難な課題が山積しています。皆様と長期的な「目標」と「夢」を共有して医学部・病院そして外科学教室の次の100年に向けて力強く歩みだしたいと存じております。どうか外科学教室ならびに刀林会会員の皆様におかれましてはご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。何卒よろしくお願ひ申し上げます。

この度、10月1日付で熊本大学大学院生命科学研究部小児外科学・移植外科学分野の教授を拝命いたしました。輝かしい伝統と歴史を誇る熊本大学医学部で、外科学の未来を拓く傍々に恵まれましたこと、感謝の念に堪えません。重責を前に大変に緊張しております。北川雄光教授を始めとする塾医学部外科学教室、ならびに刀林会の偉大な先輩より外科医としての薫陶を賜り、そして三四会の諸先輩・同輩・後輩の先生方より医師としてのあり方をご教示いただき、また教授選考に際しましてもひとかたならぬご支援を授かり、重ねて御礼申し上げます。

日本人の死因の第1位であるがんの中でも、切除が困難を究め予後不良な疾患が多い肝胆膵領域の悪性腫瘍と対峙すべく、私は外科医を志しました。1998年に塾医学部を卒業後、横須賀米海軍病院を経て、当時研修医担当主任だった故大上正裕先生のご高配で北

熊本大学大学院生命科学研究部 小児外科学・移植外科学分野 教授就任



日比 泰造 (77回)

島政樹先生(現国際医療福祉大学副理事長)が教授の一般・消化器外科に入局いたしました。関連病院出張で白部多可史先生に外科医の基本を叩き込まれた後、国立がんセンター中央病院で5年間、腫瘍外科の研究を積む幸運に授かりました。当時国内最多の肝・膵切除症例全ての手術・周術期管理に携わり、世界を先導する日本の肝胆膵外科の複雑かつ精緻な手技を徹底的に学びました。大学に戻り北川教授、田邊稔先生(現東京医科歯科大学教授)のご指導のもと、がんセンターでは手がけられない、肝細胞癌に対する確立された治療である肝移植に新たな向き合いました。初めて担当した肝移植レシピエントを救命できず、無力感に苛まれる中でご本人の無念を何としても晴らしたい、と心に誓いました。ちょうど臓器移植法改正の議論と重なり、脳死移植の機運が高まったことから、世界最多の移植数を誇る米国で武者修行を積むことを決心いたしました。

全米のフェロウシップマッチングに参加したところ、最大規模の移植施設として臓器不全患者にとつて最後の砦であるマイアミ大学に首尾よく採用されました。幸い2010年の渡米当初から肝胆膵・移植外科の日本の偉大な先輩のおかげで極めて高い評価を受け、2年間にわたり移植患者の手術・周術期管理に明け暮れ、豊富な執刀経験を授かりました。

2012年に再び大学に戻り、爾来5年間、北川教授、板野理先生(現国際医療福祉大学教授)、篠田昌宏准教授、専任講師の北郷実先生、阿部雄太先生、八木洋先生と肝胆膵・移植外科領域の「全方位戦略」を掲げ、腹腔鏡下胆摘から肝移植・超拡大切除まであらゆる良悪性疾患に取り組むこととなりました。尾原秀明准教授率いる血管班からも多大なご助言・ご支援を受け、他院・他国では治療困難・不能とされた患者に対し良好な成績を上げてまいりました。この間、若林剛先生(現上尾中央総合病

院院長補佐)が主宰された第2回腹腔鏡下肝切除国際コンセンサス会議の実務担当で世界中の肝臓外科のリーダーとの知己を得たことに加え、日本人初の国際肝移植学会(International Liver Transplantation Society)のVanguard Committee委員に選ばれ、欧米・アジアの肝移植のリーダーと仕事をすることになりました。また北島先生のご学友であられる高田忠敬先生(日本肝胆膵外科学会名誉創立者)のご高配で、大上先生が飛躍的に発展させた腹腔鏡下胆摘の国際プロジェクトや急性胆嚢炎・胆管炎の国際ガイドライン改訂に加わり、塾医学部のありがたご縁に導かれ、外科医になった時には想像だになかった地平線に立つこととなりました。

熊本大学の小児外科・移植外科は、新生児を含めた小児外科と、成人・小児の肝移植を中心とする腹部臓器移植外科の両翼をひとつのチームで担う、世界でもあまり類を見ない特別な診療科です。初代教授の世良好史先生は小児外科の中で最も肝・胆道疾患および悪性腫瘍の治療を強力に推進され、小児内視鏡外科の先駆者であると共に、世界初の生体肝移植成功例となる患児をオーストラリア

にご紹介することで胆道閉鎖症の新たな治療戦略への道を切り拓かれました。続いて第二代教授の猪股裕紀洋先生が、生体肝移植を飛躍的に発展させたことで世界的に知られる京都大学のご経験を元に、小児外科に加えて移植外科を当チームのふたつの柱として掲げられ、通算肝移植500例以上(2017年現在)と日本屈指の移植施設に育て上げられました。

塾医学部に学んだ私は、まず何よりもひとりの人間として患者・家族と向き合い、そして外科医・科学者として生命の深淵を覗き込むことを怖れず、真理を探究する academic surgeon であることを信条としています。日本のみならず世界中の小児患者、そしてがんを含む様々な理由で末期臓器不全に陥った患者に最高の外科医療を届けることが自らの使命です。「無知の知」、「巨人の肩の上に立つ」を肝に銘じ、たとえ険しい道、道なき道であっても常に患者と共に未来を信じ、技と知恵を限りなく磨き、火の国熊本から連帯を広げて、理想の高みを目指してまいります。どうか末永くご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願ひ申し上げます。



国際医療福祉大学 教授就任



瀧本 康史 (66回)

2017年7月1日付けにて、国際医療福祉大学医学部小児外科学主任教授を拝命しました。教授就任にあたりまして、国際医療福祉大学副理事長北島政樹先生、慶應義塾大学小児外科教授黒田達夫先生をはじめ、刀林会の諸先輩方より多大なるご指導、ご支援を受け賜りましたことに厚く御礼申し上げます。

私は1987年に慶應義塾大学医学部を卒業し、外科学教室に入局いたしました。関連病院の外科に出向の後、一般・消化器外科の小児外科班に入室いたしました。その後、本邦を代表する小児病院である東京都立清瀬小児病院(現、東京都立小児医療総合センター)、国立成育医療センターに勤務して新生児外科、小児腫瘍外科を含めた小児外科を幅広く経験いたしました。この間、1995年から5年間、米国ハーバード大学マサチューセッツ総合病院に留学し、臓器・骨髄移植の移植免疫ならびに幹細胞研

究を行いました。2005年からは一般・消化器外科から独立した慶應義塾大学小児外科に帰室し、小児外科、新生児外科ならびに小児肝・小腸移植の臨床、教育に従事しました。また留學での経験を活かしてレジデントの学位取得のための研究指導にも力を入れまし

た。私が小児外科を専攻した当初は先天性食道閉鎖症、先天性横隔膜ヘルニアの術後救命率は著しく低かったのですが、日進月歩の小児医療の進歩によりこれらの疾患の多くが救命できるようになりました。更に減黄不良の胆道閉鎖症は死を待つばかりでしたが、現在では肝移植により9割近くの子供が救命されるようになりました。小児外科領域では、手術により救命するのみではなく、いかにして手術により患児のQOLを高めて、満足のいく人生を送れるようにできるかのパラダイムシフトが起こっております。

は本年4月に「国際医療学園都市構想」にて成田空港を擁する成田市に開学いたしました。私は初代小児外科教授として「新しいもの」をつくるというやりがいとともに、その責任の重大さと不安もあります。まずは「信頼される小児外科チーム」を作っていくかと思

います。そして信頼されるチームを作ると同時にQOLの向上に重要となる「再生医療」の小児外科疾患への応用、生存率の改善のみられない難治性小児がんに対する「免疫療法」を併用した集学的治療、大学のミッションである「グローバルに活躍する医師の育成」を目指して「魅力ある小児外科教室」を作っていきたいと思っております。一人の力ではとてもできないことではありません。今後とも刀林会の皆様のご支援のほど何卒よろしく

お願い申し上げます。国際医療福祉大学医学部

本院は1982年(昭和57年)に創立され、今年で35周年を迎えました。創立当初から掲げてきた「生き生きとした医療と看護を提供する」という本院の理念は、最近国策として推進されていく「病気を治すだけでなく、生活を支える」地域包括ケアシステムの考えを先取りした先見性のあるものだと思います。以来、総合リハビリテーション施設、東京都指定二次救急医療機関、各種学会認定施設など、認可を得て、急性期から回復期、慢性期までシームレスな医療を提供するケア・ミックス型病院として地域医療の一翼を担って参りました。「殆ど在宅、時々入院」を目指す地域包括ケアシステムを実現するには、在宅医療の充実とともに、急変時の入院からその後の退院支援体制の整備が欠かせません。急性期、回復期、慢性期、さらに地域包括ケア病棟の四つの病棟機能を持つ本院は、acute、sub-acuteの緊急入院、あ

病院紹介

多摩丘陵病院



医療法人社団幸隆会
多摩丘陵病院 院長
島津 元秀 (53回)

るいは超急性期病院からpost-acuteの受け入れ、さらに回復期・リハビリ、慢性期療養までを積極的に担っていく責任があると考

えています。当院と慶應義塾との関係は古く、初代院長は慶應から東京医大を経て転身された永井隆先生(22回、整形外科)です。その後の院長もすべて慶應出身で、2代目は村上恵一先生(34回、リハビリ科)、3代目は今井達郎先生(53回、外科・形成外科)、4代目は掛川暉夫先生(33回、外科)で、私は2015年から5代目院長に就任し、掛川先生が理事長になられました。外科としては1984年から久保脩先生(39回)、1996年から医局派遣として白部多可史先生(60回)が勤務され、2000年から関連病院として研修医を派遣して頂くようになりま

した。現在のスタッフは櫻川忠之(75回相当)、丸山正太郎(82回相当)、内雄介(85回)、鳥崎友紀子(94回)で、良いチームワー

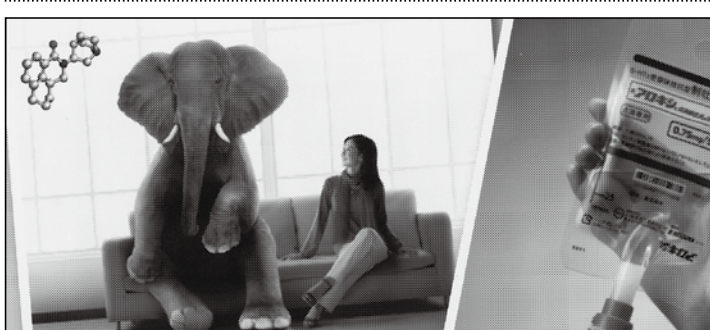
クでハードワークをこなしながら当院の急性期医療を担っています。非常勤として、池田正先生(53回)に乳腺科、鶴田雅士先生(79回)に下部消化管科を担当して頂いており、研修医には一般・消化器外科の基礎をしっかりと習得してもらい、さらに高難度手術も経験させています。さて、2025年には私を含め団塊の世代が後期高齢者となり超高齢化社会に一層拍車がかかります。国も地域医療構想として二次医療圏毎に各病院の機能分化を目指し、医療と介護の一体的な基盤整備計画を進めています。そのような状況の中で、地域医療の第一線の担い手として本院の果たすべき役割はさらに重要になることを認識して、職員一丸となって頑張っております。刀林会員の皆様の一層のご指導、ご支援をお願い致します。

クでハードワークをこなしながら当院の急性期医療を担っています。非常勤として、池田正先生(53回)に乳腺科、鶴田雅士先生(79回)に下部消化管科を担当して頂いており、研修医には一般・消化器外科の基礎をしっかりと習得してもらい、さらに高難度手術も経験させています。さて、2025年には私を含め団塊の世代が後期高齢者となり超高齢化社会に一層拍車がかかります。国も地域医療構想として二次医療圏毎に各病院の機能分化を目指し、医療と介護の一体的な基盤整備計画を進めています。そのような状況の中で、地域医療の第一線の担い手として本院の果たすべき役割はさらに重要になることを認識して、職員一丸となって頑張っております。刀林会員の皆様の一層のご指導、ご支援をお願い致します。

クでハードワークをこなしながら当院の急性期医療を担っています。非常勤として、池田正先生(53回)に乳腺科、鶴田雅士先生(79回)に下部消化管科を担当して頂いており、研修医には一般・消化器外科の基礎をしっかりと習得してもらい、さらに高難度手術も経験させています。さて、2025年には私を含め団塊の世代が後期高齢者となり超高齢化社会に一層拍車がかかります。国も地域医療構想として二次医療圏毎に各病院の機能分化を目指し、医療と介護の一体的な基盤整備計画を進めています。そのような状況の中で、地域医療の第一線の担い手として本院の果たすべき役割はさらに重要になることを認識して、職員一丸となって頑張っております。刀林会員の皆様の一層のご指導、ご支援をお願い致します。

クでハードワークをこなしながら当院の急性期医療を担っています。非常勤として、池田正先生(53回)に乳腺科、鶴田雅士先生(79回)に下部消化管科を担当して頂いており、研修医には一般・消化器外科の基礎をしっかりと習得してもらい、さらに高難度手術も経験させています。さて、2025年には私を含め団塊の世代が後期高齢者となり超高齢化社会に一層拍車がかかります。国も地域医療構想として二次医療圏毎に各病院の機能分化を目指し、医療と介護の一体的な基盤整備計画を進めています。そのような状況の中で、地域医療の第一線の担い手として本院の果たすべき役割はさらに重要になることを認識して、職員一丸となって頑張っております。刀林会員の皆様の一層のご指導、ご支援をお願い致します。

クでハードワークをこなしながら当院の急性期医療を担っています。非常勤として、池田正先生(53回)に乳腺科、鶴田雅士先生(79回)に下部消化管科を担当して頂いており、研修医には一般・消化器外科の基礎をしっかりと習得してもらい、さらに高難度手術も経験させています。さて、2025年には私を含め団塊の世代が後期高齢者となり超高齢化社会に一層拍車がかかります。国も地域医療構想として二次医療圏毎に各病院の機能分化を目指し、医療と介護の一体的な基盤整備計画を進めています。そのような状況の中で、地域医療の第一線の担い手として本院の果たすべき役割はさらに重要になることを認識して、職員一丸となって頑張っております。刀林会員の皆様の一層のご指導、ご支援をお願い致します。



「効能・効果」、「効能・効果に関連する使用上の注意」、「用法・用量」、「用法・用量に関連する使用上の注意」、「禁忌を含む使用上の注意」等については、添付文書をご参照ください。

5-HT₃ 受容体拮抗型制吐剤 創薬、処方箋医薬品(注意—医師等の処方箋により使用すること) 薬価基準収載

アロキシ 静注 0.75mg Aloxi i.v. injection 0.75mg

アロキシ 点滴静注用 0.75mg Aloxi i.v. infusion bag 0.75mg

パロセトロン塩酸塩注剤 製造販売元 大鵬薬品工業株式会社 資本金 HELSIN スイス

〒101-8444 東京都千代田区神田錦町1-27 TEL.0120-20-4527 FAX.03-3293-2451 http://www.taiho.co.jp/ 2016年5月作成

すべての革新は患者さんのために

CHUGAI 中外製薬

Roche A member of the Roche group

AVASTIN bevacizumab

at the Front Line CHUGAI ONCOLOGY

日本標準商品分類番号 874221

抗悪性腫瘍剤 抗VEGF注1)ヒト化モノクローナル抗体 生物由来製品、創薬、処方箋医薬品注2)

薬価基準収載

アバスタン 点滴静注用 100mg/4mL 400mg/16mL

ベバシズマブ(遺伝子組換え)注

注1) VEGF: Vascular Endothelial Growth Factor(血管内皮増殖因子) 注2) 注意—医師等の処方箋により使用すること

※効能・効果、用法・用量、警告、禁忌を含む使用上の注意、効能・効果に関連する使用上の注意、用法・用量に関連する使用上の注意等は製品添付文書をご参照ください。

製造販売元 中外製薬株式会社 〒103-8324 東京都中央区日本橋室町2-1-1 ホームページで中外製薬の企業・製品情報をご覧ください。 http://www.chugai-pharm.co.jp 2016年11月作成

【第 31 回日本外傷学会総会・学術集会】

2017 年 6 月 1 日～6 月 2 日 於 パシフィコ横浜

収支報告書

I 収入の部 (単位: 円)
科目 金額
参加登録費、会員懇親会収入 12,400,000
寄付金等 1,670,000
共催セミナー収入 6,431,280
広告収入 4,820,000
展示収入 7,160,000
本部補助金 2,000,000
雑収入 69
収入の部合計 (a) 34,481,349

II 支出の部 (単位: 円)
科目 金額
会議エージェンツ経費 7,509,357
印刷製本費 1,023,250
音響照明等機材費 1,947,500
備品費 254,300
看板・表示板 469,500
会場関係費 12,122,694
招宴関係費 2,893,749
会員懇親会費 820,704
講師謝礼等 3,564,807
ホームページ作成費 250,000
雑費 567,119
本部返還金 3,058,369
支出の部合計 (b) 34,481,349

III 収支差額 (単位: 円)
金額
(a-b) -

財産目録

2017 年 11 月 8 日現在

科目 金額
資産の部
流動資産
普通預金
三井住友銀行 三田通支店 口座番号 8438564
第 31 回日本外傷学会 会長 北野光秀 -
資産合計 -
正味財産 -

以上、「収支報告書」および「財産目録」について報告いたします。

2017 年 11 月 8 日
第 31 回日本外傷学会総会・学術集会
会長 北野光秀

各分野から、計 31 演
題の発表が
あつた。進行
は、すべて英
語で行った。
内容の充実
が、脳神経
外科の国際
化を促進し
ていくことに
貢献した。
この報告書
は、今後の
活動の参考に
していただく
ことをお願い
する。

第 32 回日本脳神経外科国際学会フォーラム
第 31 回日本脳神経外科同時通訳夏季研修会
収支報告書

収入の部

項目 金額
参会費 805,000
広告料 432,000
セミナー共催費 1,080,000
展示費 324,000
企業寄附金 50,000
日本脳神経外科学会補助金 1,000,000
日本脳神経外科コンgres補助金 1,000,000
刀林会寄附金 660,000
こぶし会寄附金 670,000
獨協医科大学脳神経外科寄附金 800,000
合計 6,821,000

支出の部

項目 金額
事務局運営費 110,000
印刷物製作費 340,522
消耗品費 89,580
通信費 61,000
下見・案内等旅費 125,420
寄附金事務手数料 100,000
小計 826,522
会場関係費 1,164,160
会場設営費 258,000
機器借上費 1,953,400
スタッフ要員費 728,240
運営諸経費 108,360
招待者招聘費 269,125
輸送費・交通費 103,000
料飲費 583,050
雑費 40,604
小計 5,207,939
総合運営・進行管理費 500,000
消費税 286,539
合計 6,821,000

日本外傷学会は、日本の外傷診療の向上をめざし外科医、救急医、脳外科医、整形外科医などが中心となり設立された学会で、済生会からは故吉井 宏先生(前済生会神奈川県病院院長53回)が第19回の本学会の会長となりました。

第31回日本外傷学会総会は、6月1日2日、横浜市のパシフィコ横浜で、済生会横浜市東部病院の横浜市重傷外傷センター長の北野が会長、救命救急センター

長(山崎元靖(74回))が事務局長で開催しました。今回の学会では、「外傷手術への挑戦」をメインテーマとして、特別企画のほかにパネルディスカッション「頭部外傷の治療限界への挑戦」、四肢外傷では「Damage Control Orthopedics」を組ませていただきました。海外からは、体幹部銃創の手術を Ordoñez 先生に (Yale University, Calif, Colombia) に、米国の肝損傷手術を

Combra 先生(カルフォルニア大学サンディエゴ校, San Diego, USA) に講演いただきました。一方、重症外傷患者の救命には人員・設備の整った外傷センターに患者を集めることが必要といわれています。本邦でも日本外傷学会が中心に外傷センターの基準案が作成されましたが、実際の外傷センター認定には至っていません。そこで、本学会では、県・市あるいは学会が実際の外

傷センター認定に向けて動き出すきっかけとなるように、パネルディスカッション「本邦における外傷センターの整備」を企画しました。新企画として海外招聘医2名を中心とした外傷症例検討会をおこないました。日本外傷学会のルーツは、済生会神奈川県病院と日本医科大学の2病院カンファレンスから始まった外傷症例検討会です。今回はそのルーツとなった症例検討会を英語でのプレゼンテーションで学会期間内に行いました。英語でのプレゼンテーションということで敬遠されるかなど少し心配でしたが、多数の方にきていただき質疑応答も活発でした。

今回の学会開催を通じて多数の刀林会の先生方のサポートをいただきました。幸い収支にて赤字を出さずに済みこれもひとえに刀林会の諸先輩方、また同級の先生方のおかげだと痛感しております。今回は本当にありがとうございます。

このたびは、私どもが担当した第32回 Japan Neurosurgical English Forum (JNEF: 日本脳神経外科国際学会フォーラム) に多大なご援助を賜り、まことにありがとうございます。おかげさまで去る2017年7月14、15日に、大宮ソニックシティにおいて、併催した第31回日本脳神経外科同時通訳夏季研修会ともども、盛会のうちを終えることができました。

発表についてのレビューを受ける一方、それぞれの発表を scientific value、presentation manner、English usage の3つの項目で採点しました。今年の最高得点は、悪性神経膠腫に対する中性子捕捉療法について発表された筑波大学の Alexander Zaboronk 先生が獲得されましたが、とりわけ若手の皆さんには、多くの刺激とともに思いがけず、本学会で恒例



第31回日本外傷学会総会を終えて



済生会横浜市東部病院
横浜市重傷外傷センター

北野 光秀 (59回)

第32回日本脳神経外科国際学会
フォーラムを終えて



獨協医科大学
脳神経外科

萩野 雅宏 (67回)

の教育講演「うまい同時通訳のコツ」を、ときに初学者に対する指導を交えながら、十分にお話しいただくことができました。学会主催をとりまく状況が困難となりつつあるなか、安心して会の運営に専念できたのはひとえに先生がたのご助力の賜物でありました。ここに改めて、心よりお礼申し上げる次第です。ありがとうございます。

第58回日本肺癌学会学術集会、 第18回世界肺癌学会議を終えて



慶應義塾大学医学部
外科（呼吸器）教授

浅村 尚生（28回）

この度、第58回日本肺癌学会学術集会（2017年10月14日～15日）、第18回世界肺癌学会議 The 18th



▲皇太子殿下がご臨席された世界肺癌学会議開会式の様子

World Congress of Lung Cancer（10月15日～18日）を、パシフィコ横浜にて無事開催させていただきました。刀林会の先生方には多くのご指導、ご協力、ご寄付を賜り、心より御礼を申し上げます。

本年は日本肺癌学会学術集会の開催に連続して世界肺癌学会議をタンドムスケジュールで開催するという新たな取り組みを行いました。日本肺癌学会学術集会は、刀林会の諸先輩方は1968年に石川七郎先生（14回）、1986年に末舛恵一先生（28回）、2000年に小林紘一先生（46回）が成功裏に会長職をお勤めになつております。今回は、指定演題約250題と一般演題約1000題の発表がなされ、約4000名の参加を集めました。

引き続き開催された世界肺癌学会議は、肺癌の国際学会である International association for the Study of Lung Cancer (IASLC) が毎年

世界各地で開催する肺癌に関する最大規模の国際会議です。日本での開催は17年ぶり3回目となりました。刀林会の先生では石川七郎先生が1982年に第3回の海外を東京で開催されています。今回は開会式に皇太子殿下がご臨席され、より一層の肺癌研究の進展を期待される旨のお言葉を頂戴いたしました。「Synergy to Conquer Lung Cancer」の標語のもとに、外科治療、内科治療、放射線治療、検診、患者支援など全領域の研究者が世界中から集結し議論が繰り広げられました。結果として400題超の招待講演と約2000題の一般演題が発表され、100か国超からおよそ7000名が参加し過去最大規模の動員人数となりました。

日本肺癌学会とIASLCの合同企画として、バイオリニストの諏訪内晶子さんと東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団（指揮：高関健氏）によるコンサートをみなどみらいホールで行いました。チャイコフスキーのバイオリン協奏曲の華やかで壮麗な音色に多くの観客が酔いしれました。両学会では日本そして世界の肺癌学の現状と将来への展望が活発に討議され、参加者の方々には実りが多く中身の濃い学会となったと確信しております。刀林会の先生方に厚く感謝を申し上げますとともに、今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますようお願いを申し上げます。

刀林賞を受賞して



慶應義塾大学医学部
外科（一般・消化器）

尾原 秀明（72回）

この度は伝統ある刀林会の刀林賞をいただき、身に余る光栄に存じます。今回の受賞にあたり、ご指導とご推薦いただきました外科教室教授 北川雄光先生、子宮移植プロジェクトチームの産婦人科学教室 木須伊織先生に心より感謝申し上げます。私が受賞した論文は、Nature Publishing Group が発刊する Scientific Reports 誌に2016年に掲載された「Surgical technique for allogeneic uterus transplantation in macaques」という表題の論文です。

近年、子宮性不妊女性が児を得るための1つの選択肢として子宮移植が考えられてきています。2014年にスウェーデンより世界初の生体間子宮移植後の出産が報告され、以降計8例の出産成果が挙げられております。しかしながら、子宮移植の術式、免疫抑制、拒絶の病理組織診断等に対する標準化されたプロトコールは確立されておられません。世界各国（日本を除く）で子宮移植が生体、脳死合わせて38例施行されていますが、出産まで至ったのはスウェーデンチームのみであり、まだまだ多くの課題が残っております。その解明には非ヒト霊長類を用いた検証が極めて有用ですが、現在まで安定した同種子宮移植実験モデルの報告はありませんでした。

今回われわれは様々な手技の工夫により、非ヒト霊長類であるカニクイザルを用いた同種異系子宮移植モデル作成に成功したので報告しました。本研究では、カニクイザルの同種異系子宮移植を計4例行いました。ドナー手術は脳死ドナーを想定した術式とし、腹部骨盤内全臓器の同時灌流後に、子宮グラフトを自己子宮摘出後のレシピエントへ同所に移植しました。術後は免疫抑制剤による拒絶コントロールと感染に留意しながら管理し、4頭全例、90日以上生存しています。

慶應義塾大学では、産婦人科と外科を中心とした子宮移植プロジェクトチームが、2010年より基礎実験を開始し、2020年の臨床応用実現に向けて慎重に準備を進めております。今後、本研究に対する様々なご意見を真摯に受け止め、刀林会員の皆様のご理解とご指導をいただきたく、お願い申し上げます。



刀林奨励賞を受賞して



慶應義塾大学医学部
外科 (呼吸器)

橋本 浩平 (84回)

刀林会の諸先輩方におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。この度、名誉ある刀林会奨励賞を頂くことができたことを、大変嬉しく

思っております。ご推薦頂いた浅村尚生教授を始め、外科学教室の皆様からのご指導に改めて感謝申し上げます。本研究は、肺移植医療の

大きな課題の一つである移植直後の移植肺機能不全に於ける新たなメカニズムを解明したものであります。肺移植後の移植肺機能不全の原因として虚血再

灌流障害が知られていますが、これは様々なメカニズムの複合体の総称であり、細部までは明らかにされていません。今回の受賞の対象となったのは、トロンボ大学での研究フェロー中の成果である論文 (Circulating Cell Death Biomarkers May Predict Survival after Human Lung Transplantation; Hashimoto et al. American Journal of Respiratory and Critical Care Medicine 2016) です。本研究では、肺移植直後のグラフト肺における細胞死のシグナルが、移植後の移植肺機能不全、さらには長期生存に影響を及ぼしていることが示されました。これは細胞死経路が、虚血再灌流の中でも予後に

関連する重要な要素であることを意味します。現在移植肺機能不全の診断は、酸素化能・レントゲン上の肺浸潤影の存在というマクロの基準のみが用いられております。本研究は、低侵襲に採取できる血漿中のバイオマーカーを利用することにより、診断精度を向上できる可能性があることを示唆します。更に理論的には、細胞死経路をターゲットとした治療が、肺移植後の治療成績を向上できる可能性があります。本研究が、今後の肺移植の術後成績向上に貢献できるものと願っております。

今後この賞に恥じぬよう精進を続けていきたいと思っております。今後ともご指導の程、宜しく申し上げます。



刀林賞選考委員会 委員長
東海大学

幕内 博康 (49回)

2016年度「刀林賞」

選考にあたって

2016年度刀林賞には

5編の優れた論文が応募されました。11名の選考委員の方々に事前に査読・評価戴いた後、2017年3月24日(金) 18時30分より外科学教室会議室にて選考委員会が開催されました。委員長、北島政樹理事長の挨拶の後審議が行われました。

〈全般的意見〉
5編いずれも甲乙付けがたい優秀な論文であり、インパクトファクターも高い。移植・免疫に関する論文が多い。臨床研究が少ないうえ、留学中の研究をまとめた論文が多い。採点方式に工夫が欲しい。

〈個々の論文に対する意見〉 (順不同)
広く臨床で行われている腎移植の免疫寛容破綻のメカニズムについての研究で

あり、臨床応用も容易である。これぞ刀林賞にふさわしい。
ヒトの肺移植の成否判定に有用で臨床応用も近い。E:13.1と高い。母校に帰る気はあるのか。臨床はできるのか。近々帰校する。臨床面でも大変優れている。

〈結論〉
以上のような激論が交わされたがなかなか結論がでませんでした。尾原、山田、橋本の3論文の内から刀林賞候補を選ぶことが先ず決まり、更に議論の末、委員の採点の良かった尾原論文「Surgical technique for allogeneic uterus transplantation in macaques」が世界初というところもあり、刀林賞に推挙されました。奨励賞についても紛糾しましたが、橋本論文と、近藤論文が選出されました。以上を理事会に上申し、承認されました。熱心に審査して戴いた委員各位に感謝申し上げます。各位に次回も多くの論文の応募を期待しています。

刀林奨励賞を受賞して



独立行政法人国立病院機構
東京医療センター 外科

近藤 崇之 (88回)

この度は伝統ある刀林会の刀林奨励賞をいただき、身にあまる光栄に存じます。今回の受賞にあたりご指導いただきました北川雄光教授、長谷川博俊准教授、岡林剛史先生に厚く御礼を

申し上げます。関連病院での研修を終えて帰室した2013年に岡林剛史先生から「肝線維化と肝転移」の研究テーマをいただき、臨床研究や基礎研究で試行錯誤を経て、「肝

線維化は大腸癌肝転移を促進する」という仮説を証明する結果を得ることができました。私が受賞した論文は2016年の「British Journal of Cancer」に掲載され

た「The impact of hepatic fibrosis on the incidence of liver metastasis from colorectal cancer」という表題で、慶應義塾大学で行った臨床研究の結果をまとめたものです。大腸癌の転移好発部位は肝臓であり、大腸癌による死亡の半数は肝転移が原因です。肝転移を制御することが大腸癌の予後を改善するために重要となります。近年、食事の欧米化に伴い肝線維化につながる非アルコール性脂肪性肝炎を有する患者が急増していますが、それらの疾患と大腸癌肝転移との関わりについてはこれまで十分に検証されていません。そこで我々は根治的切除を行った結腸癌患者953例について肝線維化スコアリングシステムを用

いて肝線維化を評価し、大腸癌術後肝転移との関係について検討しました。肝線維化は独立した術後肝再発の予後因子であった一方、肝臓以外の臓器への転移との関連は認めませんでした。肝線維化は肝転移に特化した予後予測因子であることが示されました。また、本研究の結果から、癌治療において、癌に対する治療だけでなく、標的臓器の環境改善も治療対象とすることが重要であることが示唆されました。

現在、この臨床結果のメカニズムを明らかにすることを目標に基礎研究を継続しております。今後ともご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願い致します。

世界初の成功例で委員の採点に良かった。子宮移植の臨床的意義はどうか。生命に直接関係しない移植はどうか。男性には判らない女性心理もある。

帰室報告

留学を終えて



静岡県立静岡がんセンター 胃外科 入野 誠之 (82回)

私は2014年8月から2016年8月まで、北川教授とがん研有明病院・佐野武先生のお力添えをいただき、スウェーデンのカロリンスカ大病院の上部消化管外科にClinical fellowとして留学しておりました。私には、がん研有明病院胃外科に在籍時に取得した内視鏡外科技術認定(胃)を携え鏡視下手術(食道切除および胃切除)の指導および助手を行うというミッションが課せられておりました。ミッションの遂行とともに、慣れてくると次第に内視鏡や病棟業務の一

部、学生や研修医への講義と、結果的には幅広く業務を行っておりました。スウェーデンと日本が大きく異なる点はいくつもありますが、その一つは働き方です。週の法定労働時間が40時間はしつかりと守られ、有給休暇は最低年5週間、特に夏は4週間連続して休みを取ることが法的な権利として認められており、多くの人がスウェーデンやヨーロッパ各地の別荘で過ごします。一方、そのようなゆとりのある生活をしながらも生産性は極めて高く、例えば医師数・人口



数で調整した臨床医学論文数は日本の倍以上というレベルです。女性の就業率が80%以上と世界的にも高いことでも有名で、そのための社会基盤も盤石です。国民には男女平等の精神が法的・社会的に行き渡っており、例えば子供が生まれた際には多くの父親が3ヶ月の育児休暇を取得し、周囲もそれを当然と考えています。また、多くの

女性外科医の活躍も見逃せません。先の労働時間の順守、男性の育児参加、社会の協力体制を考慮すれば、この国で女性が外科医として働くことに何ら支障はなく、驚くことはありません。日本人には馴染みが薄く、移民、IKEA、高い税金に高福祉といった漠然としたイメージであるスウェーデンの実態は、民度の非常に高い国民を携えた多様性と平等、自由を重んじる戦略的な国家と言えます。留学中の2年間で学んだことは医学・医療そのものというよりは、それを取り巻く環境です。日々の生活習慣から家族や友人、同僚との関わり、言葉、労働環境、ワークライフバランス、教育。この国の人々を見てみると、それらが全て高いレベルで統合・維持されて、初めて高いパフォーマンスが生み出されると強く感じます。スウェーデンをはじめ北欧諸国が経済のみならず、医学・医療分野でも世界有数の先進国であるのは決して偶然ではありません。これらを直接目で見て、肌で感じたこの2年間は、まさに価値観、人生観が変わるに相応しい経験であったと思います。

帰室報告

留学を終えて



慶應義塾大学医学部 外科 (呼吸器) 高橋 祐介 (82回)

2年2か月にわたる米国ニューヨークのMemorial Sloan Kettering Cancer Center 胸部外科への留学を終え、本年9月に慶應義塾大学医学部呼吸器外科研究室に帰室いたしました。Memorial Sloan Kettering Cancer Center はニューヨークのマンハッタンにある、癌専門病院に研究所を併設する施設です。私の所属した研究室のPIであるDr. Adusumilliは胸部外科医でありながら、臨床研究を行うグループと、肺癌および悪性胸膜中皮腫に対するCAR (chymic receptor antigen) T cell therapyの基礎研究を行うグループの二つを率いていました。研究室には総勢20名以上の胸部外科医、腫瘍内科医、病理医、免疫学者、分子生物学者が所属しており、それぞれの専門領域をこえてディスカッションを重ね、生物統計学者などと協同しながらプロジェクトの結果にしていって過程を学ぶことができました。自分

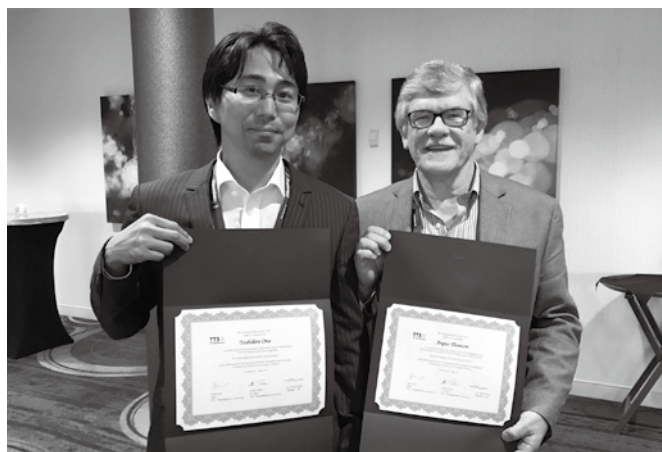
取り組み、幸運にもいくつかの論文発表や学会発表の機会を得ることができました。加えて臨床カンファレンスで施設の臨床を学んだり、クリニカルフェローと親交を深めたりと、胸部外科の研究の利点を享受することができました。また、超一流の研究者や臨床医がカンファレンスやセミナーなどで熱心に議論している姿を見ることができたことも大きな収穫でした。その中で感じた新しい肺癌研究の方向性や米国の胸部外科診療や医学教育などについて実感したことを、これからの臨床・研究の両面で活かしていきたいと思っています。末筆になりますが、このような貴重な経験をさせてくださったに当たり、浅村尚生教授、帝京大学川村雅文教授はじめ教室の先輩方には多くのご指導、ご助言をいただきました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。引き続きご指導、ご鞭撻いただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

帰室報告

留学を終えて



がん研有明病院 肝胆膵外科 小野 嘉大 (83回)



私は、ポストチーフとして、がん研有明病院の肝胆膵外科で3年間の研修を行いました。2014年4月より、3年間ピッツバーグ大学へ留学させていただき、幸いにも2つのラボにて学ぶ機会を持つことができました。初めての1年3ヶ月を病理部門、Alejandro Sotocurie先生のもとで、後の1年9ヶ月を外科、移植部門 (Starzl Transplant Institute) にてGeller先生、Thomson先生のもと、研

究を行いました。前半の病理部門では、ラットの異所性肝移植モデルを用いて肝再生におけるLiver resident cellまたは骨髄由来細胞の役割についての研究を行い、後半の外科・移植部門では、マウスの肝移植モデルを用いて、肝移植免疫寛容における樹状細胞の役割についての研究を行いました。移植免疫は、私にとっても新しい分野であり、学ぶべきことも多く大変ではありましたが、多くの同僚、コラボレーターに助けられ、PI達にも恵まれ、非常に有意義な時間を過ごすことができました。ピッツバーグ3年目を迎えた春に、移植の父と呼ばれたStarzl先生が90歳を迎え、その誕生日パーティーに参加しました。残念ながら私が帰る直前、

91歳の誕生日の1週間前に他界されましたが、そこではしつかりと独歩され、ジョークを交えながら話していたつしやい、それもまた貴重な体験であったと感じています。研究だけでなく、日本ではなかなかできなかったこと、アメリカならではのactivityにも参加する機会を持てたのも良い経験となりました。長らく休んでいたアイスホッケーを再開できたこと、フルマラソンに2度参加したこと、NHL Pittsburgh PenguinsのStanley Cup優勝の年に立ち会え、Stanley Cupを見に行けたこと、アメリカ人の子供ができたこと、などなど。多くの貴重な体験をできた非常に充実した留学生活だったと実感しており、北川教授をはじめ、留学の機会を与えていただき、また現地でもサポートしていただいた先生方に非常に感謝しております。ここで学んだことを、これからの臨床・研究にぜひ生かしていければと思っております。

帰室報告

カナダ・トロント留学記



慶應義塾大学医学部 外科 (呼吸器)

橋本 浩平 (84回)

2017年7月より助教として帰室いたしました。2012年よりカナダ・トロント大学で研究(2年)及び臨床(3年)のフェローシップを行って参りましたので、ご報告致します。研究では、肺移植のバイオマーカー探索、ラット肺移植モデルを用いた虚血再灌流障害に対する新規治療の研究を行いました。その後臨床の場に移り、トロント総合病院を拠点に、胸部悪

性・良性疾患に対する外科的治療・胸腔鏡手術・内視鏡治療を幅広く経験致しました。また、現地のレジデンスに順じて心臓血管外科と食道癌手術も研修しました。その後1年間の肺移植のトレーニングを積みま

論文を出し、臨床に行けた！と、思ったら本場のレジデントの回診や会話の早さは凄まじく、看護師さんや患者さんのくだけた英語を理解する事は大変な事でした。数えきれない程の悔しい思いも、沢山の症例を経験でき

移住の時には、大好きだったトロントの景色(写真1)の一部であったセスナに乗って、ドナーの病院に昼夜構わず何度も出勤する事になりました(写真2)。レシピエントの手術(写真3)のダイナミックさと、術後に患者さんの呼吸苦が劇的に改善するのは感動的でした。

Dr. Kestaviceをはじめとしたトロント大学の先生方、苦楽を共にしたフェロー仲間(写真4)、支えてくれた家族や友人のお陰です。また、留学に際してお世話になりました先生方、浅村教授をはじめとする呼吸器外科医局の先生方にも改めて感謝申し上げます。刀林会の諸先輩方には、今後とも何卒ご指導賜れますよう宜しくお願い致します。

一般・消化器外科北川雄光教授の御高配を賜りまして、2017年4月よりドイツのハイデルベルク大学一般・消化器・移植外科に留学させていただきました。ハイデルベルクはドイツの南西に位置する人口15万人の小規模な都市であり、街の中心をライン川が流れ、中世ヨーロッパの趣にあふれた街並みを有しています。ドイツ最古であるハイデルベルク大学を中心として学園都市として栄え、留学生が多いことから大学内の公用語はドイツ語ではなく英語となっております。市街地は11月下旬からクリスマスに向けて準備で活気づき、留学生活に彩りを添えてくれます。

私が臨床医達と研究を共有することで、大きな収穫がありました。それは臨床医達の姿勢です。ハード面において決して研究環境

が整っているとは言えませんが、現ポジションをキープするべく彼らは必死に情報をupdateし、新しいエビデンスを発信しようとしています。結果がでないことも多いのですが、頻回に

留学報告

ドイツ留学記



ハイデルベルク大学

田中 真之 (86回)

ドイツカッシーオンを行うことで全員が同じ目的を共有しており、何とかこのマイナンドを日本に持ち帰り、実践できればと思います。また、手術中は日本とドイツの手術の考え方やアプローチ方法・手技の違いについて議論が尽きません。特にメツチェンを主体としたスタイルは手術の原点であり、その上高度な技術を学べる貴重な経験となっております。



写真1



写真2



写真3



写真4

私の勤務する

Chirurgis-che Klinikは大学キャンパス内にある外科病院であり、一般・消化器・移植外科では年間700件の膵切除を行っており、



石田隆先生と自宅にて



オフィス近くからの風景

留学報告

マサチューセッツ ジェネラルホスピタルに留学中



マサチューセッツ ジェネラルホスピタル リサーチフェロー

松田 諭 (87回)

2017年4月より米国ボストンにありませ...

の大変熱心な研究姿勢は強...



同期卒の日本人外科医と

同期卒の日本人外科医と... は慶應義塾大学...

御礼申し上げます。... 室、刀林会の皆様...

留学報告

留学記



マサチューセッツ ジェネラルホスピタル リサーチフェロー

永山 愛子 (86回)

2017年4月より米国ボストンのマサチューセツ...

でもありません。ポスドク6...



Leif Ellisen 先生と

最後にになりましたが、大...

Advertisement for blood products including Venoglobulin IH 5% and Neuart. Includes logos for Astellas and JB.

Advertisement for Astellas with the slogan 'まだないくすりを創るしごと。' and the Astellas logo.

第10回日韓血管外科学会

「The 10th Korea-Japan Joint Meeting for Vascular Surgery」 the Best Poster Award を受賞して



慶應義塾大学医学部
外科 (一般・消化器)
林 応典 (91回)

この度、平成29年4月15日から16日にかけて、韓国の釜山で開催された第10回日韓血管外科学会「The 10th Korea-Japan Joint Meeting for Vascular Surgery」に、私と班長である尾原秀明先生(72回)

の2名で参加いたしました。私は Best Poster Award を、尾原秀明先生は Best Oral Award を頂くことができました。今回の受賞は多くの諸先輩方より御指導頂いた賜物であります。このような国際学会参加の機会を



与えて下さりました北川雄光教授、および日頃から直接御指導頂いております血管班の諸先生方をはじめ、刀林会会員の先生方には深く感謝申し上げます。今回私は、当科で経験した大腿静脈グラフトの使用経験についての報告を行いました。一般的に、血行再建に使用するグラフトには、自家血管と人工血管の2つがあり、感染面や開存率の観点から前者が推奨されます。自家血管のうち、最も頻繁に使用されている自家血管は大伏在静脈ですが、その血管径は5mm程度であり、大血管の血行再建には径が小さいという問題点が挙げられます。そこで私たち血管班では、大伏在静脈ではなく大腿静脈を使用することで、この問題点に対応してきました。私

たちはこれまでに、20例以上の大腿静脈グラフト使用経験を有しており、いづれも良好な成績をおさめてきました。対象となる血行再建には、感染性大動脈瘤の大動脈再建、肝移植時の静脈再建、腹部内臓癌の血管合併切除後再建など多岐にわたっております。血管外科の分野のみならず、腹部内臓癌の手術や肝移植手術においても協力して手術を行うことができません。慶應義塾大学医学部外科教室という大教室制度による賜物と考えております。今回のように、諸先輩方から教えて頂いた外科医としての心得を忘れず、多くの方々と連携して、また新たな情報を世界に発信していきたいと考えております。

最後にになりますが、今回の受賞を励みに、臨床・研究双方で今後より一層精進していく所存でありますので、刀林会の先生方におかれましては、今後とも変わらぬ御指導御鞭撻のほど、何卒宜しくお願い申し上げます。

この度、私 脳神経外科教室の武藤淳(81回)は、第23回日本頭蓋底外科学会(2017年6月15、16日、長野)において日本頭蓋底外科学会優秀論文賞、そして第76回日本脳神経外科学会総会(2017年10月12、14日、名古屋)において総会奨励特別賞を受賞致しました。

両学会にて受賞対象となった私の論文は、脳神経外科で最も権威ある学術誌 Journal of Neurosurgery に2016年2月に掲載された "Comparative analysis of the anterior transpetrosal approach with the endoscopic endonasal approach to the petrosal region" です。

慶應義塾大学脳神経外科が得意とする頭蓋底領域の様々な疾患に対して、脳神経外科、耳鼻咽喉科、形成外科、放射線科を中心に集学的治療成績の向上を目指すことを目的とした日本頭蓋底外科学会における受賞のみならず、日本脳神経外科学会総会においても、脳腫瘍、脳血管障害など脳神経外科領域の多岐にわたる専門領域から1年間に発表された候補論文の中より、私の研究成果が奨励特別賞として選出されました。この論文は、河瀬斌名誉教授、吉田一成教授によって確立されました世界的な水準の慶應義塾大学脳神経外科における頭蓋底手術の経験とオハイオ州立大学留学時代で学んだ経験に基づき、河瀬斌名誉教授が開発した Anterior transpetrosal approach と経鼻内視鏡手術を解析しました。また、近年は脳神経外科領域における低侵襲化が進み、急速に適応が拡大してきた経鼻内視鏡手術であります。また、開頭手術でも経鼻内視鏡手術でも難易度の高い斜台錐体部の解剖学的特徴を解析するとともに、腫瘍の進展部位に応じた有効かつ安全な手術戦略を明示したものであります。今回の業績は、

第23回日本頭蓋底外科学会賞受賞 & 第76回日本脳神経外科学会総会奨励特別賞記念



済生会宇都宮病院
脳神経外科
武藤 淳 (81回)



外科学教室 新入室者紹介



慶應義塾大学医学部
外科 (呼吸器)

菱田 智之
(77回相当)

このたび、浅村尚生教授
のご高配により、伝統ある
刀林会に籍を頂きましたこ

と誠に光栄に存じます。私
は、名古屋大学を卒業後、
平成19年から国立がん研究
センター東病院にて、主に
胸部悪性腫瘍の外科診療、
臨床試験の実務などに従事
してまいりました。頂いた
職責に身の引き締まる思い
ですが、これからは新たな
治療開発や教育にも積極的
に取り組み慶應医学の発展
に微力ながらに貢献したい
と考えております。今後と
もご指導ご鞭撻を賜ります
ようお願い申し上げます。



日本鋼管病院

八田 浩平
(86回相当)

2007年に藤田保健衛
生大学を卒業し、研修医を
経て藤田保健衛生大学下部
消化管外科で10年間お世話
になり、本年4月より中途
入局させていただきました
八田浩平と申します。今後
とも何卒よろしくお願いま
します。



東京医療センター

河合 佑子
(93回相当)

初めまして、河合佑子と
申します。平成20年に東京
医科大学を卒業し初期研修
を行った後、乳腺科に入局
しました。その後専門病院
等で研鑽を積み、乳腺専門
医、がん薬物療法専門医を
取得しました。今後は研究
を中心に臨床を行いたく入
局させて頂きました。何卒
よろしくお願いまし上げま
す。



慶應義塾大学医学部
外科 (呼吸器)

田中 浩登
(90回相当)

この度、慶應義塾大学医
学部外科学教室に入室させ
て頂きました90回生相当の
田中浩登と申します。卒後

4年間は沖縄県立中部病院
で、その後2年間は石垣島
の県立八重山病院で一般外
科研修をしておりました。
当該医療圏唯一の急性期病
院として、急性疾患から末
梢血管外科、消化管、呼吸
器悪性疾患に対する手術、
化学療法などに対応し、広
範な内容の研修を行いまし
た。今年度より呼吸器外科
に入局致しました。本会員
の一員としての自覚を持
ち、一生懸命勉強させて頂
きます。ご指導宜しくお願
いたします。



慶應義塾大学医学部
外科 (心臓血管)

山下 健太郎
(90回相当)

この度、慶應義塾大学医
学部外科学教室に入室させ
て頂きました、90回生相当
の山下健太郎と申します。
現在は慶應義塾大学病院に
て心臓血管外科レジデント
として修練を積んでおりま
す。日々諸先生方の温かい
ご指導を賜わり、学ぶべき
事の多さを感じておりま
す。未熟な身ではあります
が、今後ともご指導ご鞭撻
の程、よろしくお願いまし
上げます。



山梨県立中央病院

中込 貴博
(92回相当)

中込貴博と申します。山
梨大学を卒業後5年目にな

り、現在、山梨県立中央病
院、呼吸器外科にて、76回
生の後藤太一郎先生に師事
しております。呼吸器外科
を志し早3年目、日々自分
の未熟さを実感し、患者様
へ何とか還元すべく奔走す
る毎日です。その中で慶應
外科学教室入室は大きな転
機となりました。長い歴史
の中で確かな外科医療を提
供し続けてきた教室の一員
として、責任を感じながら
邁進しようと身を引き締め
ております。



慶應義塾大学病院
川合 雄二郎

「信濃の国」から「信濃町」
にやって参りました川合で
す。金沢大学を卒業後、地
元の長野県に戻り佐久総合
病院で初期及び後期研修を
行い、本年度より慶應義塾
大学の大学院生となりました。
宜しくお願いまします。

慶應義塾大学医学部
外科 (一般・消化器)

坂本 承

はじめまして、坂本承と
申します。私は外科研修先
の上尾中央総合病院で若林
剛先生や川久保博文先生
と出会ったことが縁で、
この度慶應の一般・消化器
外科に入局いたしました。
何卒宜しくお願いましま
す。



94 回生



日野市立病院外科
森本 洋輔

出身高校：北海道札幌南高校
出身大学：慶應義塾大学
クラブ：漕艇部



伊勢原協同病院
佐野 淳一

出身高校：巣鴨学園高校
出身大学：山口大学
クラブ：趣味：野球部

この度、慶應義塾大学外科学教室に入局させていただきました。94回生の森本洋輔と申します。現在伊勢原協同病院にて大変充実した日々を過ごしております。伝統ある慶應外科教室で修練を積めることに誇りを持ち、努力して参りますので、御指導御鞭撻の程よろしくお願ひ申し上げます。



独立行政法人
国立病院機構
栃木医療センター
嶋根 学

出身高校：慶應義塾志木高等学校
出身大学：慶應義塾大学
クラブ：漕艇部、野球部

この度、慶應義塾大学医学部外科学教室に入局させて頂きました。94回生の嶋根学と申します。現在、栃木医療センターで後期研修を行わせて頂き、日々諸先輩方から温かいご指導を賜っております。信頼され、的確かつ安全な医療を提供出来ますように日々鍛錬を積んで参りますが、今後とも御指導御鞭撻の程お願ひ申し上げます。



日本鋼管病院
加藤 悠人

出身高校：東京都立西高等学校
出身大学：慶應義塾大学
クラブ：漕艇部、野球部

この度慶應義塾大学外科学教室に入局させて頂きました。94回生の加藤悠人と申します。済生会宇都宮病院にて初期研修を行い、現在日本鋼管病院にて後期研修をさせて頂いております。伝統ある慶應外科学教室で学ばせて頂けることをとても嬉しく思っております。若輩者ではございますが日々精進して参りますので今後ともご指導御鞭撻の程何卒よろしくお願ひ申し上げます。



立川病院
水野 翔大

出身高校：桐朋高等学校
出身大学：慶應義塾大学
クラブ：趣味：バドミントン部

この度、慶應義塾大学外科学教室に入局させて頂きました。94回生の水野翔大と申します。現在立川病院にて後期研修をさせて頂いております。日々充実した日々を過ごさせて頂いております。若輩者ではございますが、日々精進して参りますので今後ともご指導御鞭撻の程何卒よろしくお願ひ申し上げます。



慶應義塾大学病院
秋山 千佳

出身高校：晃華学園高等学校
出身大学：北里大学
クラブ：漕艇部、硬式庭球部

この度、慶應義塾大学医学部外科学教室に入局させて頂きました。94回生の秋山千佳と申します。乳腺外科医になることを目指し、日々精進して参りたいと思っております。至らない点が多いことと存じ上げますが、今後とも御指導御鞭撻の程宜しくお願ひ申し上げます。



湘南東部総合病院
原田 正比古

出身高校：私立武蔵高等学校
出身大学：獨協医科大学
クラブ：漕艇部、管弦楽部(バイオリン)、水泳部

平成29年度より入室させて頂きました原田正比古です。湘南東部総合病院で修練を開始しております。理論と実践の合わさった手術という技術に魅力を感じ、外科を志しました。アカデミックで世界に発信できる外科医を目指し、精進して参ります。



東京都済生会中央病院
松田 康平

出身高校：神奈川県立川和高等学校
出身大学：大分大学
クラブ：漕艇部、剣道部

この度、慶應義塾大学医学部外科学教室に入局させて頂きました。松田康平と申します。現在は東京都済生会中央病院で毎日充実した外科研修を送らせて頂いております。患者に寄り添った医療が提供できるように日々研鑽を積んで参りたいと思っております。至らぬ点は多々あると思いますが、今後とも御指導御鞭撻の程、よろしくお願ひ申し上げます。



稲城市立病院
小桐 雅世

出身高校：昭和女子大学附属昭和高等学校
出身大学：慶應義塾大学
クラブ：漕艇部、馬術部

この度、慶應義塾大学医学部外科学教室に入局させて頂きました。小桐雅世と申します。現在は後期研修医として、稲城市立病院にてスタッフの先生方から厳しくも非常に温かいご指導を賜り、大変充実した日々を過ごしております。外科医として常に患者さんに寄り添った診療ができるよう精進して参りますので、今後とも御指導御鞭撻の程、宜しくお願ひ申し上げます。



多摩丘陵病院
鳥崎 友紀子

出身高校：桜蔭高等学校
出身大学：慶應義塾大学
クラブ：趣味：弓道部、舞台鑑賞

この度、慶應義塾大学医学部外科学教室に入局致しました。94回生の鳥崎友紀子と申します。済生会宇都宮病院、慶應義塾大学病院にて初期研修を行い、現在は多摩丘陵病院にて諸先生方から厳しくも温かい御指導を賜り、充実した日々を送っております。至らぬ点も多いかと存じますが、自らの技術と心で患者に寄り添える外科医になるべく日々精進して参ります。今後とも御指導御鞭撻の程、宜しくお願ひ申し上げます。



公立福生病院
梅山 知成

出身高校：灘高校
出身大学：慶應義塾大学
クラブ：趣味：ボート部

この度慶應義塾大学外科学教室に入局させて頂きました。94回生の梅山知成と申します。現在公立福生病院で研修を行い、日々研鑽を積ませて頂いております。若輩者ではございますが、諸先輩方の温かいご指導を賜りまして充実した外科研修の日々を過ごさせて頂いております。一人でも多くの方の助けとなる様に精進して参りますので、今後とも変わらぬご指導御鞭撻の程、よろしくお願ひ申し上げます。



那須赤十字病院
山脇 幸子

出身高校：桜蔭学園
出身大学：東京女子医科大学
クラブ：趣味：水泳部、シンクロ、ダンス、スイミング

平成29年より外科入局しました山脇幸子です。4月から那須赤十字病院で後期研修をさせて頂いております。温かく教育的な先生方のもと、素晴らしい環境で研修させて頂ける事に感謝しながら、一歩一歩丁寧に頑張ります。至らない点が多々あるかと思いますが、精進して参ります。よろしくお願ひ申し上げます。



国際親善総合病院

多田 彩子

出身高校：香川県立高松高等学校
出身大学：徳島大学
クラブ・趣味：テニス部、映画鑑賞

この度慶應義塾大学医学部外科学教室に入局させていただきました。94 回相当の多田彩子と申します。国際親善総合病院で後期研修をさせて頂いております。伝統ある当教室で研鑽を積み、常に謙虚な姿勢で、患者様と真摯に向き合いたいと思っております。今後ともご指導ご鞭撻のほど、宜しくお願い申し上げます。



国際医療福祉大学
三田病院

中嶋 信太郎

出身高校：慶應義塾大学
出身大学：慶應義塾大学
クラブ・趣味：水泳部

この度、慶應義塾大学医学部外科学教室に入局させていただきました。94 回生の中嶋信太郎と申します。現在、国際医療福祉大学三田病院で、外科一年目をスタートし、日々諸先輩方からご指導いただき、充実した外科研修を過ごしております。信頼される外科医になれますよう、精一杯精進して参りますので、今後ともご指導ご鞭撻の程、何卒よろしくお願い申し上げます。



北里研究所病院

前 ゆうき

出身高校：慶應義塾大学
出身大学：慶應義塾大学
クラブ・趣味：水泳部

今年度4月より慶應義塾大学外科学教室に入局しました。前ゆうきと申します。現在、北里研究所病院にて研修をさせて頂いております。信頼される外科医を目指し努力を重ねていく所存です。至らぬ点も多いかと存じますが、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



永寿総合病院

星野 尚大

出身高校：慶應義塾高等学校
出身大学：東邦大学
クラブ・趣味：ゴルフ部

この度、慶應義塾大学医学部外科学教室に入局させて頂きました。94 回生の星野尚大と申します。永寿総合病院で外科医としての1年目をスタートし、温かいご指導を賜りながら日々研鑽を積んでおります。至らぬ点が多いかと存じますが、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



太田記念病院

中川 知彦

出身高校：東海高校
出身大学：慶應義塾大学
クラブ・趣味：水泳部

この度、慶應義塾大学医学部外科学教室に入局させていただきました。94 回生の中川知彦と申します。済生会宇都宮病院での初期臨床研修を経て、現在は太田記念病院にて研鑽を積み上げていただいております。伝統あるこの教室の一員として、患者に常に寄り添った医療を提供できるよう、日々精進して参ります。今後ともご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。



済生会横浜市東部病院

橋本 崇

出身高校：聖光学院高等学校
出身大学：慶應義塾大学
クラブ・趣味：水泳部

この度、慶應義塾大学医学部外科学教室に入局させて頂きました。94 回生の橋本崇と申します。現在、済生会横浜市東部病院で多くの諸先輩方に御指導を賜り、修練をさせて頂いております。今後とも何卒御指導御鞭撻のほどお願い申し上げます。



浜松赤十字病院

小関 優歌

出身高校：慶應義塾高等学校
出身大学：慶應義塾大学
クラブ・趣味：水泳部

94 回生の小関優歌と申します。国保旭中央病院で初期研修を行い、現在浜松赤十字病院で後期研修をさせて頂いております。若輩者ではございますが、日々精進して参りますのでご指導ご鞭撻のほど何卒宜しくお願い致します。



佐野厚生総合病院

小島 英哲

出身高校：開成高校
出身大学：慶應義塾大学
クラブ・趣味：バドミントン部

この度、外科学教室に入局させて頂きました。94 回生の小島 英哲と申します。現在、佐野厚生総合病院で後期研修をさせて頂いております。精進して参りますのでご指導ご鞭撻の程、何卒宜しくお願い申し上げます。



静岡赤十字病院

小谷 依里奈

出身高校：神奈川県立湘南高等学校
出身大学：東京女子医科大学
クラブ・趣味：バドミントン、陸上、ピアノ

この度、慶應義塾大学病院外科学教室に入局させていただきました。小谷依里奈と申します。済生会横浜市東部病院で初期研修修了後、現在は静岡赤十字病院にて外科医の第一歩を踏み出させて頂きました。「あなたで良かった」と思われる医師を目指し精進していく所存です。ご指導ご鞭撻のほど何卒宜しくお願い致します。

刀林会入会



公立福生病院

瀨沼 幸司

H29 年度刀林会に入会した瀨沼幸司です。H8 年順天堂大学医学部卒業。H15 年より乳腺疾患に特化し勉強して参りました。H29 年4月より公立福生病院に就職しました。ご指導ご鞭撻宜しくお願い致します。



近況報告

38〜40 回生



山本 修三 (38回)

編集委員からのご依頼により、近況報告を申し上げます。

日本の医療を世界へ 2012年12月、第二次安倍内閣が発足し、骨太方針の中に医療の国際展開の推進という方向が示されました。安倍首相を本部長とする推進本部を中心に、内閣官房の健康・医療戦略推進室、関係省庁と医療関連企業及び医療機関等、官民一体で医療の海外展開を推進する窓口として、社団法人 Medical Excellence JAPAN (MEJ) が2013年4月にスタートし、私は、このMEJの初代理事長に任命され、同時に、この戦略の内閣官房参与を拝命し、医療の国際展開に関わってきました。



年目後半に入った現在までに、ロシア、中東、中央アジア、ASEAN諸国、キューバ、ブラジルなど10カ国以上の国々を複数回訪れ、各国で循環器疾患トレーニングセンター、健康診断センター、内視鏡トレーニングセンター、画像診断センター、救急センターなどの立ち上げに関わってまいりました。新興国では経済の成長と共に、医療が強く求められる現状にあり、日本の医療のレベルと質、機器の安全性など高く評価され、日本の医療を求めている国々が多いことを強く実感しています。その結果として、海外からの患者受け入れという課題に対し、医療渡航患者の受け入れ病院として、ジャパン・インターナショナル・ホスピタルズ(JIH)という仕組みもスタートしました。慶應病院もその一つであります。上記の医療国際展開には、相川直樹名誉教授(外科47回)にも理事をお願いしております。現在の状況ももう少し続くので、元気を維持する体力づくりにも取り組んでいるところです。



飯坂 陽一 (38回)

昭和34年卒の飯坂です。昭和37年10月、工藤達之先生が脳神経外科担当の教授になられて、翌38年4月浜



秋葉 弥一 (38回相当)

さいたま市に五十九床の外科系救急病院を開設して三十八年目になります。この間、医局より応援医師を派遣いただき感謝申し上げます。



石井 勝己 (38回相当)

局麻まで含めると五千例近くの手術を手がけてきました。現在は週に一度の外

松日赤病院外科から帰局、脳神経外科研究室に入室しました。昨年4月脳神経外科は外科から独立しましたが、今まで刀林会の先生方にはお世話になりました。平成6年、立川病院脳神経外科を定年退職、非常勤で外来診療をしていました。今年の1月全て仕事を辞めました。53年連れ添った妻と毎日ウォーキング、月に2回くらいゴルフ、旅行など楽しんでいきます。

来診と検診の読影などを担当しています。平成十七年に俳誌「筑波」の主筆を拝命して以来、生活の八割は俳句に割くほどのめり込んでいます。

外来の鬱が持ち来る花便り 秘書淹れし新茶を喫す手術前 手術終ゆ雲間にいでし望の月 小刀握る事いつ断つか寒に入る ギプス巻き終えて御慶を交わしけり

このたび、第四句集『天平山』を上梓しました。

北里大学を定年退職後、立川共済病院にパート勤務したのち、現在川久保病院検診センター、永寿病院にパート勤務のほか、約1000人の企業の産業医をしております。妻と二人暮らし、10月に狭心症でステント留置しましたが、一応体調は保って働いております。



中川 自夫 (38回)

77歳の5月(2011年)神奈川県診療報酬支払基金の審査委員長を最後に引退しました。アナログ人生、下り坂最高といったところでしょうか。痛っ!

私は80才を超えました。現在クリニック診療を行っています。さらに食道がん胸管リンパ液中がん細胞のゲノム解析に国立がんセンター研究者と討論をしています。



横山 穂太郎 (39回)

週四日仕事をしています。 家内、娘3人既に結婚、孫5人、うち孫娘二人は既に結婚、曾孫1人、末娘は皮膚科医、主人は整形外科医、孫息子一人、桐朋中学二年生、孫娘(次女の)は日本医科大三年生、皆な元気にしてます。



芦花ホーム医師 石飛 幸三 (40回)

超高齢社会を迎えて、外科医であった私は70歳で介護施設の常勤医に転じました。疾患を治すだけの医療では老衰の役に立ちません。心を支える介護が時に医療を超えます。私も患者の人生をみるように心がけています。



渡邊 寛 (38回)

今年2月に傘寿を迎えました。川崎市立看護短期大学学長を最後に川崎市役所

近々食道がん免疫療法に应用されることになりました。今後も食道がんの治療に関心を持ち続けたいと思います。



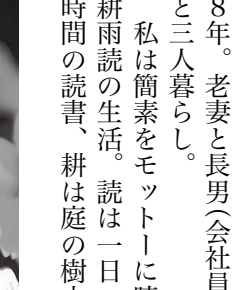
新井 健之 (40回)

を退職し、読売新聞社系の介護老人保健施設「よみうりランドケアセンター」の理事・施設長をほぼ14年半勤めて参りました。来年3月末に退任し、産業医として残る予定です。来年4月からは当施設を含めて福祉関係数か所の産業医として新たな生活になります。福祉関係の施設は低い介護報酬と職員確保の難しさから経営に大変苦労しています。



川野 辰夫 (40回)

近況報告の依頼を受けました。私自身も刀林新聞の編集委員をしていたので、非常に懐かしく思いました。



榎本 耕治 (40回)

山王病院を退職して早や8年。老婆と長男(会社員)と三人暮らし。私は簡素をモットーに晴耕雨読の生活。読は一日一時間の読書、耕は庭の樹木の手入れ(剪定、刈込み等)観賞。 本年は旧乳腺班の四名が昇天しました。長年に亘り研究、診療で慶應乳腺班を盛り立ててくれたことに感謝しています。ご冥福をお祈り致します。





船曳 孝彦 (40回)

早いもので、東京に戻ってから8年以上が経過しました。藤田保健衛生大学学長を退職してからは12年になります。退職後の藤田学園の変革、活躍、発展ぶり(現学長・星長清隆54回生)には、十分満足し、誇りにも思っています。

私は現在、いづれも非常勤で東京医療センターで人間ドックのお手伝いと、刈谷市の善孝会刈谷記念病院の理事・顧問で医療現場に関わってはいるものの、外科医や学長だった現役時代には全く思ってもみなかった生活です。



第 131 回関東外科プロゴルフ選手権シニア優勝

役は2年ほど前からお断りし、参加学会も減らしてきていますが、それでも年間5、6回は出席し、何編かの原稿も依頼されるため、結構忙しくしています。藤田学園関連や、三四会、同級会、高校や中学の同窓会幹事役等も多く引き受けざるを得なくなりました。

4年前、大動脈弁狭窄で置換手術(四津教授)を受けましたが、お陰様で2年後に奥穂高岳に登頂するなど順調にカムバックし、現在も元気に過ごしています。さすがに登山は幕を閉じましたが、スキーは海外を含めてまだまだ続行の予定で、ゴルフも年間30回を目標にしており、ゴルフはエイジシミュートなどの技量は持つていませんので、シニアティからのエイジ+10シユートなるものを考案(今81歳です)ので91ストローク以下のラウンド)し、楽しんで



開業記

横浜血管クリニック



横浜血管クリニック 院長 林 忍 (72回)

当院は昨年2月、神奈川県内で唯一の血管外科専門のクリニックとして横浜駅西口に新規開業いたしました。私は平成5年に塾医学部を卒業し、一般・消化器外科学教室に入局させていただきました。日野市立病院、川崎市立川崎病院で外科学の手ほどきを受けました。平成8年の帰省時には、血管外科学を専攻し、松本賢治先生に血管外科の基礎を教えていただきました。慶應での3年間のレジデント生活を終えた後、平成11年に済生会神奈川県院に赴任いたしました。血管外科はまったくのゼロからのスタートでしたが、諸先輩方

のご助力もあり、血管外科という狭い世界ではありますが、症例の多い病院といわれるまでになることが出来ました。赴任10年目には済生会横浜市東部病院で、横浜初のハイブリッド手術室の構築にも携わらせていただきました。医療界は日進月歩ですが、振り返ってみると最近の10年、腹部大動脈瘤に対するステントグラフト留置術や下肢の閉塞性動脈硬化症に対するカテーテル治療の導入など、血管外科は特に変化の大きい診療科でした。従来のダイナミックな腹部正中大切開下の人工血管置換術やバイパス手術は激減し、また、他の診療科がこの領域に参入してきたことで、生粋の外科医として生きてきた自分には寂寥感と限界を感じるようになりました。

一方、血管外科で一番扱う症例数の多い「下肢静脈瘤」の治療も、従来のストリップング手術から、まったく切らずに治療を完結しうる血管内焼灼術(レーザー治療)に劇的にシフトしまし

た。その治療効果、低侵襲性、安全性により、日帰り治療が可能になり、それまで「命にかかわらないから」「高齢だから」という理由で治療をされていなかった患者さんも積極的に治療を受けてくださるようになりました。当院でも多くの下肢静脈瘤の患者さんに喜んでいただいています。



なでしこ外科医



慶應義塾大学医学部
外科 (一般・消化器)
中村 理恵子 (79回)

なでしこ、とのことですので女性としての立場より寄稿させて頂きます。
男女共同参画社会基本法が制定されたのは1999年とのこと。この頃私は卒業を前に入局に迷い、最終的に紆余曲折を経て外

科学教室に希望を出しました。女医が増えてきているこの頃であっても、唯一勧誘を受けなかったのが外科学教室でした。また入局された女医の先生も少なく、学生に配られた各科アンケートの女医としての活動

欄に「今までに事例がないのでわからない」とのコメントが多かったのを覚えていますが、最終的には自分の信念と同期の勧めと支えもあり、入局を決めました。私のもともとの医学部進学目的は外科医師になるた

めでした。中学・高校在学時に術後に入退院を繰り返して外科医師と関わる事が多く、その際の説明の意味が分からず、理解したいと思つたことがきっかけでした。今となつては本当に簡単なことで、こんな些細なことだけで人生を決めたのかとも思いますが、自身自身が入院した時に経験した外科の先生方の治そうとする努力と実際に治してくれ

るという信頼関係に対する憧れが強かつたので、選択をしたことに後悔はありません。今は、もともとの信念であつた、診断から治療入院中の術後管理、退院後の経過観察・治療と、「ずっと寄り添える外科医師」からは少し外れた、内視鏡診断や治療のみを主とした活動となつていますが、治療

方針を決定しなければならぬ患者さんや術後症状に困つて内視鏡を受けられる患者さんに対して相談に乗りたいと思つています。
現状、「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律(女性活躍推進法)」の制定により、女性の活躍推進に取り組むことが義務づけられ、男女共同参画社会構築のための環境整備が進められています。自分としてはあまり女性であることとを前に出すのは得意ではないのですが、外科医ではあるが女性としてこういう働き方、活躍の仕方もあるのだということをお手本になるべく精進していきたいと思つています。

一般・消化器外科乳腺班は、前班長の神野浩光先生が2015年4月に帝京大学医学部外科学講座教授にご就任されるにあたり、林田哲(77回生)が班長を受け継いで約2年半が経過いたしました。
昨今の乳癌診療は生物学的な多様性に対応した個別化医療が深く浸透しているため、臨床医であっても固形癌に関する基礎医学の深い理解が必須となつてい

なでしこ外科医



独立行政法人国立病院機構
東京医療センター
乳腺科
原田 華子 (88回)

このたびは、刀林会新聞の企画に寄稿するように、との命をいただきましたので、大変僣越ではございますが、一筆書かせていただきますこととなりました。

私はチーフレジデント終了後、国立埼玉病院へポストチーフ出張として約半年間出向させて頂きました。夫は塾医学部衛生学公衆衛生学教室助教として信濃町キャンパスに勤務しており、山形県鶴岡市での大規模メタボロミクス・コホート研究等に従事しております。2016年

秋から一年間、メタボローム・フェノーム疫学研究に関する Imperial College London との共同研究体制構築のため、Department of Epidemiology and Biostatistics, Faculty of Medicine, Imperial College London に

秋から一年間、メタボローム・フェノーム疫学研究に関する Imperial College London との共同研究体制構築のため、Department of Epidemiology and Biostatistics, Faculty of Medicine, Imperial College London に

秋から一年間、メタボローム・フェノーム疫学研究に関する Imperial College London との共同研究体制構築のため、Department of Epidemiology and Biostatistics, Faculty of Medicine, Imperial College London に

秋から一年間、メタボローム・フェノーム疫学研究に関する Imperial College London との共同研究体制構築のため、Department of Epidemiology and Biostatistics, Faculty of Medicine, Imperial College London に

秋から一年間、メタボローム・フェノーム疫学研究に関する Imperial College London との共同研究体制構築のため、Department of Epidemiology and Biostatistics, Faculty of Medicine, Imperial College London に

秋から一年間、メタボローム・フェノーム疫学研究に関する Imperial College London との共同研究体制構築のため、Department of Epidemiology and Biostatistics, Faculty of Medicine, Imperial College London に

診療体系グループ紹介

乳腺班



慶應義塾大学医学部
外科 (乳腺班)
林田 哲 (77回)

診療面においても、スタッフである高橋麻衣子(79回相当)・関朋子(85回生)が中心となつて基礎から応用まで高い精度の乳癌診断学を体系的に指導しています。また、針生検前の画像診断を中心に、放射線診断科との合同カンファレンスにおいて、詳細で緻密な評価が行われ、我々の理解とスキルを高めると同時に、不必要な針生検を少しでも減らす努力をしていただいています。
さらに平成29年度から、今までは個別に対応を行っていた形成外科・腫瘍センター・緩和医療センター・産婦人科・臨床遺伝学センターとともに診療クラスターの再編を行い、新たに慶應病院プレストセンターを立ち上げました。これにより、急速に需要が拡大している乳房再建術や、若年性乳がんにおける妊育性の温存などについて、円滑な連携を行うことが可能となりました。さらに、患者情報をプレストセンター全体で共有することで、リスクをいち早く効率的に摘み取り、昨今問題になつてい

追悼

故尾形利郎先生 (31回) を偲んで

元防衛医大第二外科

杉浦 芳章 (46回)

尾形利郎先生享年88歳、慎んでご冥福お祈り申し上げます。癌センターから昭和52年防衛医大の第二外科学講座の初代教授にご就任されました。小生、琉球大学第二外科を3年勤めそろそろと阿部先生を訪れました。すぐ尾形先生に電話な

時代の三十人くらいの患者さんのサマリーを作りました。土曜日の午前中マウスの回診を済ませ、ちよつと行きましよう米山先生、いつのまにか三四二三とネオンの灯きたるいとをか

では小生食道外科の佐藤プロの組、無くなつたボールを念力で発見し蹴り出すと、プロご機嫌でした。アッペ。看学の可愛い生徒さんがアッペになりました。ご報告申し上げると、よしオレが入ると。あのう

追悼

故阪口周吉先生 (30回) を偲んで

浜松医科大学 学長

今野 弘之 (57回)

阪口周吉浜松医科大学名誉教授は昨年6月25日にご逝去されました。阪口先生は昭和51年に外科学第2講座教授として就任され、教室の基盤づくりと発展に多大な功績を残され、昭和63

た。阪口先生は臨床、特に手術適応と結果について常に厳しい姿勢で臨まれ、現在も教室の誇りであるレベルの高い診療の礎を築かれました。また外科医が臨床

このリサーチマインドは第2外科のDNAとして受け継がれています。大学を辞されてからは、先生らしく教室の運営等は一切口を出されませんが、同門会などの行事

には必ず出席され、常にピシッと筋の通つたご意見を言われ、度々襟を正す気持ちになりました。また、先生は本物のジェントルマンで、常に患者さんや女性には敬意を持って接しておられました。われわれが先生を評するとき、共通して口にするのが、「カッコいい」です。阪口



第70回日本消化器外科学会総会にて



阪口周吉先生を偲ぶ会にて

を偲ぶ会には、中村達前学長、北島政樹刀林会会長を初め、100人以上の方々にご参集頂きました。まさに「桃李もの言わざれども下自ら蹊を成す」で、先生の周りにはいつも多くのひとが集まり、「周吉先生」「周さん」「周ちゃん」と皆から愛されました。阪口周吉先生、長い間ありがとうございました。これからも天国から見守ってください。



慶應病院 外来 外科担当表

初診外来 (午前)

一般・消化器外科

北川雄光 篠田昌宏 和則則仁 尾原秀明 長谷川博俊 川久保博文

小児外科

黒田達夫 黒田達夫 星野健 藤村匠 山田洋平 山田洋平 山下直樹 藤野明浩

心臓血管外科

伊藤敬 山崎真 饗庭了 木村成 志水行 山崎真 山崎真 山崎真

呼吸器外科

大塚崇 橋本浩 浅村尚 政井兵 加勢馨 菱田智 浅村尚 高橋祐 橋本浩

脳神経外科

大平貴之 佐々木光 三輪史 高橋里 戸田正 吉田成 秋山紀 三輪武 堀口崇

秋山武紀 高橋里史

特殊外来 (午前)

川久保博文 坂田道生 松原健太郎 阿部雄太 尾原秀明 長谷川博俊 高橋麻衣子 関朋子

特殊外来 (午後)

関朋子 長谷川博俊 岡林剛史 鶴田雅士 篠田昌宏 川久保博文

特殊外来 (午後)

北郷実 川久保博文 須田康一 真柳修平 和則則仁 大塚崇 大平貴之 高野公徳

中村理恵子 内視鏡(第1・3) 古川俊治 政井恭兵 岡本一真 黒田達夫 林田哲 高橋麻衣子

呼吸器 関 朋子 免疫療法(第3) 戸田正博

脳腫瘍補助療法II 佐々木光

小児移植 星野 健

呼吸器漏れ加勢田馨

小児移植 山田洋平

脳・定位放射線(第1) 小林正人

金腸 鶴田雅士

肝臓・移植 篠田昌宏

機能疾患(パーキンソン病) 大平貴之

脳血管障害 堀口 崇

脳神経(第1・3・5) 秋山武紀

訃報

●天野 道之助君 (21回) 平成 29 年 4 月 9 日

●尾形 利郎君 (31回) 平成 29 年 6 月 16 日

●阪口 周吉君 (30回) 平成 29 年 6 月 25 日

●山崎 慶夫君 (33回) 平成 29 年 8 月 23 日

●永井 淳君 (43回) 平成 29 年 9 月 3 日

●村上 勝君 (44回) 平成 29 年 12 月 2 日

開業

編集後記

●○○○○君 (00回) 平成 00 年 0 月 0 日

○病院 平成 00 年 0 月 0 日

編集委員 委員長 川村雅文 石井良幸 佐藤周三 磯部陽三 小澤清治 古梶和治 儀賀一暁 藤野崇浩 大塚直樹 吉合大樹 鶴田弘樹 中村雅士 松本理恵

刀林賞募集

刀林賞は、刀林会の以下の優れた業績に対して授与されます。奮ってご応募ください。よろしくご案内申し上げます。

- 一、臨床的研究
二、臨床上、有用な基礎的研究
三、医学上の社会活動に関する研究
四、本会の発展に著しく貢献したと考えられる業績

刀林会刀林賞

毎年1編以内 副賞：50万円

刀林会奨励賞

毎年2編以内 副賞：10万円

応募資格

- 一、査読システムのある医学雑誌に、当該選考年の11月30日までの直近2年間に、掲載又は掲載確定となった学術論文の筆頭著者
二、刀林賞受賞歴のない者
三、刀林会会費完納者

ただし、医学上の社会活動に関する研究、本会の発展に著しく貢献したと考えられる業績に関しては、応募資格一、二の限りではない。

応募方法

- 一、毎年7月1日から11月30日までの間に、応募用紙(ダウンロード)を用いて応募する。
二、前項記載の応募用紙は、本会ホームページ記載のものをダウンロードして用いる。
三、応募者の指導者ないし、指導教授1名の推薦状(書式：応募用紙中)を要する。

受賞者は、6月の総会にて表彰されます。また、刀林新聞に論文の概要が掲載されます。

選考方法は、刀林賞規則をご参照ください。刀林会HPに掲載されています。

ご質問等ございましたら、外科同窓会までご連絡ください。(tourin-h@keio.jp) 以上

平成 30 年度 刀林会総会のお知らせ

<日時> 平成 30 年 6 月 23 日 (土) 16 時半より

<場所> ホテルオークラ東京 別館地下2階 アスコットルーム

総会 16 時半より

皆様、奮ってご参加ください。

開業についてのお知らせ

開業の際は、同窓会へご連絡をお願いいたします。記念に刀林会より盾を進呈いたします。よろしく申し上げます。



<刀林会 事務局> 〒160-8582 新宿区信濃町35 慶応義塾大学医学部外科同窓会事務局

TEL : 03-5363-3800 FAX : 03-3359-9130 tourin-h@keio.jp